



和風月名

日本には四季があり、人は暦を見てその日のお日柄のことを知り、農業や漁業などの生活設計をしていた。吉凶を占い行動基準にもしていた。しかし、ここ最近の気候は異常である。秋なのに真夏日があったり、冬のような寒さもあったりで、暦どおりの季節感がない。日本人は自然や四季の移ろいを敏感に感じる民族だから、旧暦における各月の日本風の名称には風情がある。そろそろ来年の手帳やカレンダーが売りだされてきた。日本古来の月の呼び名とその由来を眺めて、古き良き時代の季節感を感じてみたい。

月	わふうげつめい 和風月名	月名の由来	和風月名と 数字の合体
1月	睦月 むつき 睦月	老いも若きも、親族一同集まって、相睦び（むつび）月の意	睦月
2月	如月 きさらぎ 如月	寒いので衣を更に重ね着する＝衣更着、草木の芽の張り出す＝木更来の意。	如月
3月	弥生 やよい 弥生	草木いよいよいや生い茂る月の意。 いやおいしげる→いやおい→やよい	弥生
4月	卯月 うづき 卯月	卯の花の咲く月の意。十二支の4番目が「卯」の月。稲を植（う）える月。	卯月
5月	皐月 さつき 皐月	早苗を植える月、狩猟の幸（さち）を得る幸月（さつき）の意。	皐月
6月	水無月 みなづき 水無月	雷が多い月のカミナリツキのカとリを取って。田に水（みず）を入れる月	水無月
7月	文月 ふみづき 文月	稲の穂の含み月→穂含月（ほふみつき）の意。	文月
8月	葉月 はづき 葉月	木の葉が落ちる月＝葉（は）落ち月（つき）、南方より吹く南風（はえ）月の意。	葉月
9月	長月 ながつき 長月	夜長月（よながつき）の略。稲熟（いなあがり）月の約されての意。	長月
10月	神無月 かなづき 神無月	全国の八百万の神が男女の縁結びの相談をするため、出雲大社に集まり、各地の神々がない、神無（い）月の意。	神無月
11月	霜月 しもつき 霜月	字義どおり、霜（しも）が降る（ふ）月だからという意。	霜月
12月	師走 しわす 師走	一年の終わりで、皆忙しく師匠（し）といえども走る（は）るので、師（し）が馳（は）せ走（は）る（は）る月の意。	師走

（和風月名は、旧暦なので現在の季節感とは1～2ヶ月ほどのずれがあります）

1 1 月は語呂合わせのいい日がいっぱい



1 1 1 (ワンワンワン)
犬の日



いいお産・みかんの日

文化の日



いい5 (ご) 縁
りん5 (ご) の日

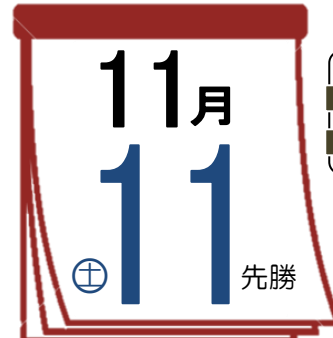
あ



119番 (消防)の日



いいトイレの日



十一十一電池の日
11 11で下駄の日



二の字二の字の下駄の跡



いい皮膚の日



いい文 (ふみ)
兄さん (にいさん) の日

勤労感謝の日



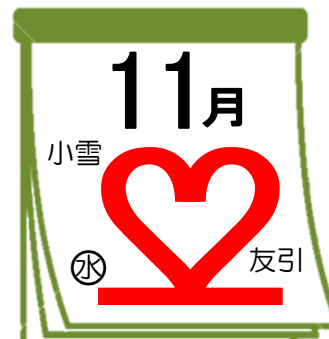
いい福・服・肉の日



いい夫婦の日



どうでもいい夫婦の日



とってもいい夫婦の日

2²

二乗
事情のある夫婦

22

夫婦の日